ミニバラによせて

山本　まゆ子

2002年。時は5月。牧師館の入り口に、三輪先生ご夫妻が丹精込めて育てられたバラのアーチが見事な花を咲かせていました。先生からのご提案で、教会新聞を作ることになり、「新聞の名前は？」と、教会の玄関で、立ち話ついでに、あれこれ候補の名前を出し合っていた時です。「『ばら便り』はどう？」誰かが言いました。けれど、バラという花は、どこか気高くて、「近寄りがたいね」などと言っていると、その横で小さく可愛く咲くミニバラが…。私たちの『ミニバラ』は、こうして始まりました。　思えば、もしかしたら教会も、このバラの花のように、人々から「近寄りがたい」と誤解されているところもあるかもしれません。けれど、長束教会に咲くミニバラは、道行く人々ににっこり微笑みかけるように咲いています。それは、三輪先生ご夫妻が、道行く方々に声をかけるように、毎日、祈りをこめてお育てくださっていたからなのだと気付かされました。

9年前、ドイツを訪問された三輪先生ご夫妻の心に咲いた教会のバラ。今こうして長束の地に根を下ろし、花開きました。先生、由美子さん、心より感謝いたします。

牧師館のバラのアーチ

編集後記　7年半に及ぶ私たちの広島での生活も、間もなく終ろうとしています。“ミニバラ”は、色々な意味で、私の広島での生活を豊かにしてくれました。これまで“ミニバラ”発行を支えてくださった方々と、愛読してくださった方々に、心から深く感謝を申し上げます。“ミニバラ”の末永い発展を期待し、祈っています。三輪恭嗣